

## 2. 学校図書館をめぐる

### 1. 学校図書館で読む本

#### (1) 全体と学年別

→図書館で読んだり借りたりするジャンルのベスト3は、①物語・童話(40%)、②学習マンガ(31%)、③探偵・推理小説(24%)

10 学校の図書館では、あなたはふだん、どんな本を読んだり借りたりしていますか。

学校の図書館で読んだり、借りたりする本のジャンルを尋ねた。

全体としてみると、ベスト3は、①物語・童話(「よくしている」「ときどきしている」の合計が40%)、②学習マンガ(31%)、③探偵・推理小説(24%)である。逆に読んだり借りたりすることが少ないのは、①理科の学習に役立つ本(14%)、②図鑑・百科事典(14%)、③社会科の学習に役立つ本(15%)である。

以上の傾向を、学校の図書館に限らず最近1ヵ月に読んだ本のジャンルと比べると、大きく異なるのは、学校の図書館で探偵・推理小説が多く、逆に図鑑・百科事典の利用率が低い点である(19頁参照)。学校の図書館で読んだり借りたりする本のジャンルとして、図鑑・百科事典の順位が低いのは意外である。

学年別にみると、5年生から6年生にかけて、ほとんどのジャンルについての利用率が低下している。

(「よくしている」「ときどきしている」の合計%)

全 体	学 年 別		
	5 年		6 年
物語・童話 40.3	物語・童話 43.7	物語・童話 36.8	物語・童話 36.8
学習マンガ 31.1	学習マンガ 34.6	学習マンガ 27.9	学習マンガ 27.9
探偵・推理小説 24.3	趣味の本 25.7	探偵・推理小説 22.7	探偵・推理小説 22.7
趣味の本 22.0	探偵・推理小説 25.7	ギャグやユーモア 19.8	探偵・推理小説 22.7
ギャグやユーモア 22.0	ギャグやユーモア 24.3	趣味の本 18.3	ギャグやユーモア 19.8
伝記 18.8	伝記 20.3	社会科の学習に役立つ本 17.3	伝記 17.2
社会科の学習に役立つ本 15.0	理科の学習に役立つ本 15.8	伝記 17.2	伝記 17.2
図鑑・百科事典 13.9	図鑑・百科事典 15.7	図鑑・百科事典 12.0	図鑑・百科事典 12.0
理科の学習に役立つ本 13.5	社会科の学習に役立つ本 12.6	理科の学習に役立つ本 11.2	理科の学習に役立つ本 11.2

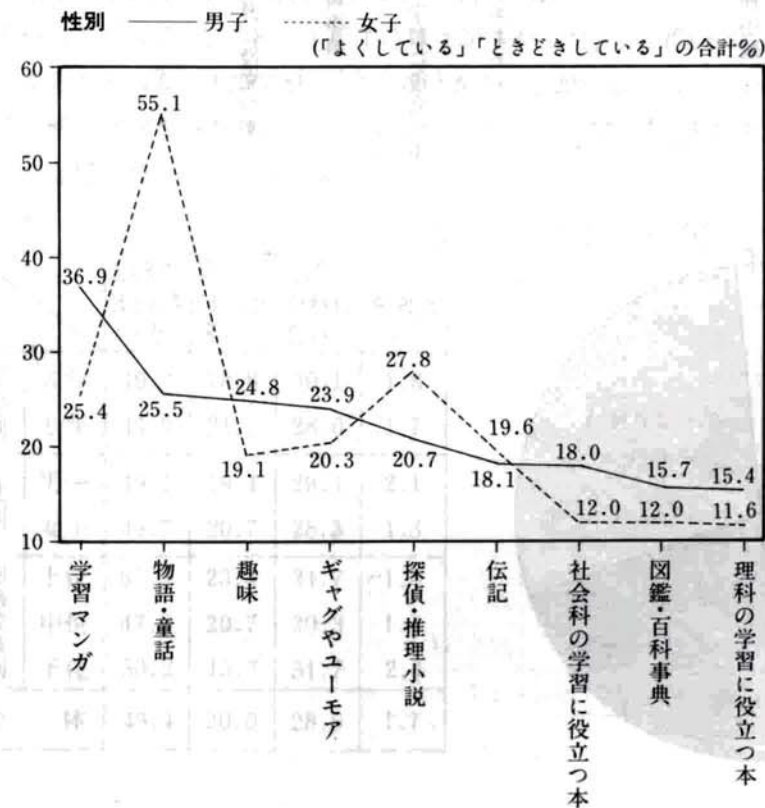
#### (2) 性別と国語の成績別

→男子に多い学習マンガ、趣味の本。女子は物語・童話に集中し、探偵・推理小説の利用度も高い

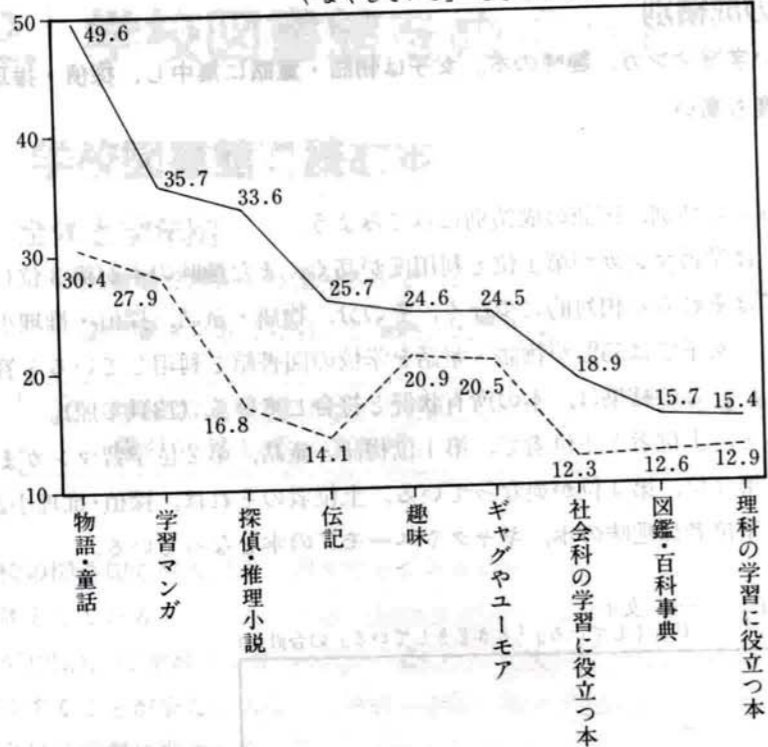
前項での結果を、さらに性別、国語の成績別にみてみよう。

性別にみると、男子は学習マンガが第1位と利用度が高く、また趣味の本が第3位に入るのに対して、女子ではそれらが相対的に少なく、その分、物語・童話、探偵・推理小説の利用度が高い。とくに女子では55%が物語・童話を学校の図書館で利用していると答えており、集中度が著しい。この結果は、本の所有状況と符合している(13頁参照)。

国語の成績別にみると、上位者と下位者で、第1位物語・童話、第2位学習マンガまでは変わらないものの、第3位、第4位が異なっている。上位者のそれは、探偵・推理小説、伝記であるのに対し、下位者は趣味の本、ギャグやユーモアの本となっている。



国語の成績 —— 上位 ..... 下位  
 (「よくしている」「ときどきしている」の合計%)



## 2. 利用度の変化

### (1) 3～4年生のころと比べて

↳「3、4年生のほうが多かった」は49%とおよそ半数

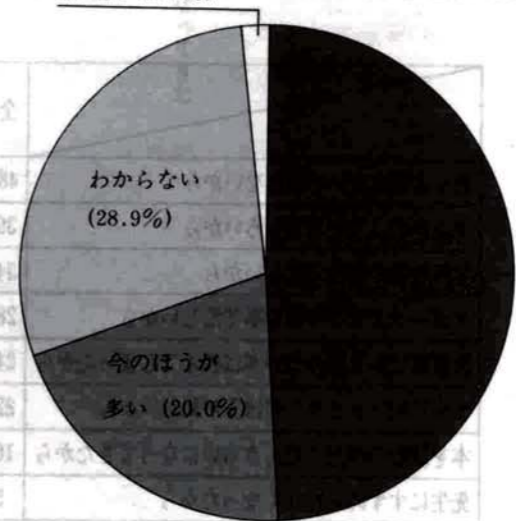
⑪ 学校の図書館で読んだり借りたりする本の数は、3～4年生のころに比べて多くなりましたか。

この調査の事前に行った図書館担当教諭へのヒアリングで、上級学年になると図書館の利用率が低下することが指摘されていた。また18頁でも、学校の図書館で本を読んだり借りたりすることがほとんどない児童の率は、6年生のほうが多いという結果が出ている。そこで、高学年になると生じるといわれるこの利用度の低下現象を考えるために、上記のような設問を準備し、また次項ではその理由を尋ねた。

全体としてみると、「3、4年生のほうが多かった」は49%とおよそ半数に達しており、「とくにかわらない」29%や、「今のほうが多い」20%を上回っている。児童自身、3、4年生の時に比べて現在（5、6年生）のほうが、図書館で読んだり借りたりする本の数は減ったと感じているものが多い。

		(%)			
		3,4年のほうが多かった	今のほうが多い	とくにかわらない	無回答
学年別	5年	49.3	18.8	30.1	1.8
	6年	49.2	21.1	28.0	1.7
性別	男子	49.1	19.4	29.4	2.1
	女子	49.7	20.7	28.3	1.3
国語成績別	上位	51.9	23.4	24.7	1.0
	中位	47.9	20.7	30.3	1.1
	下位	50.2	15.7	31.7	2.4
全体		49.4	20.0	28.9	1.7

無回答 (1.7%)



(2) 3～4年生のころに比べて図書館の利用が減った理由

↳ 第1位「このごろとくに読みたいと思わないから」48%、次いで「マンガのほうがおもしろい」40%、「学校や塾の勉強で忙しい」35%、「スポーツクラブや習い事で忙しい」28%

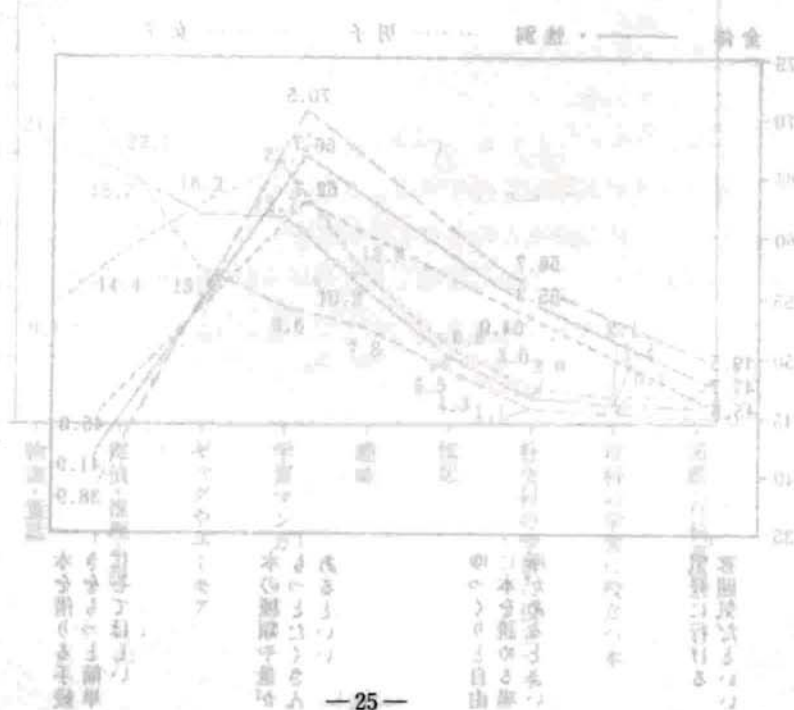
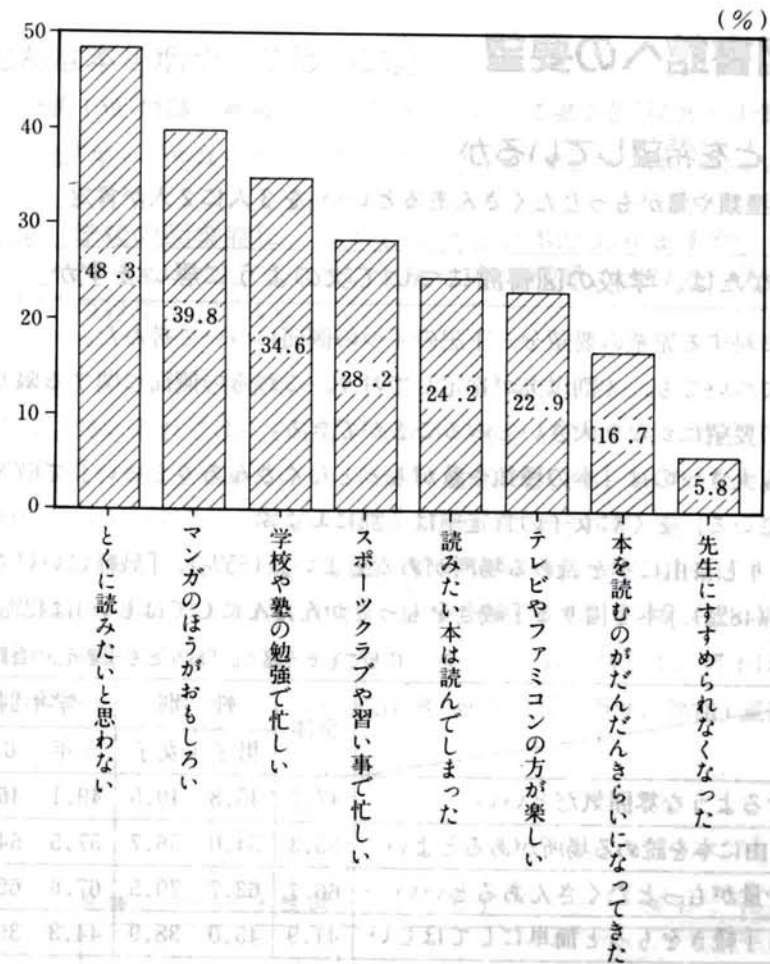
12 3～4年生のころのほうが、図書館で読んだり借りたりする本の数が多かったのは、なぜですか。あなたの気持ちに近いものに、いくつでも○をつけてください。

それでは、なぜ図書館で読んだり、借りたりする本数が減少したのだろうか。その理由を児童自身に答えさせた結果が下表である。

第1位は「このごろとくに読みたいと思わないから」で48%。漠然とした読書欲求の低下を理由とするものがおよそ半数に達している。その背景要因をつきとめることがもっとも大きな課題だろう。これに「マンガのほうがおもしろい」40%、「学校や塾の勉強で忙しい」35%、「スポーツクラブや習い事で忙しい」28%が続く。学校や塾の勉強、スポーツクラブや習い事による「多忙」を理由とするのが第3位、第4位に位置していることは、子どもの読書を考えるうえで注目されてよい。

なお、「先生にすすめられなくなった」と教員の指導上の理由を上げるものは、6%とごく少数である。

	(%)								
	全体	学年別		性別		国語成績別			
		5年	6年	男子	女子	上位	中位	下位	
とくに読みたいと思わないから	48.3	45.3	51.2	47.5	49.0	39.7	53.2	50.3	
マンガのほうがおもしろいから	39.8	38.1	41.3	47.1	32.6	30.5	41.2	47.4	
学校や塾の勉強で忙しいから	34.6	34.3	34.7	30.2	39.0	49.8	30.4	24.9	
スポーツクラブや習い事で忙しいから	28.2	33.4	23.2	28.7	27.7	33.8	28.7	21.8	
図書館にある読みたい本は読んでしまったから	24.2	28.6	20.0	22.4	26.0	27.6	25.5	18.9	
テレビやファミコンのほう楽しいから	22.9	22.3	23.4	34.2	11.8	17.5	21.9	30.3	
本を読むのがだんだんきらいになってきたから	16.7	13.8	19.5	20.4	13.1	12.3	16.5	21.8	
先生にすすめられなくなったから	5.8	5.5	6.1	6.7	4.9	7.0	5.5	5.0	



### 3. 学校図書館への要望

#### (1) どんなことを希望しているか

「本の種類や量をもっとたくさんあるといい」を3人に2人が肯定

**13** あなたは、学校の図書館について次のように思いますか。

学校の図書館に対する児童の要望を、下記の4つの側面について尋ねた。

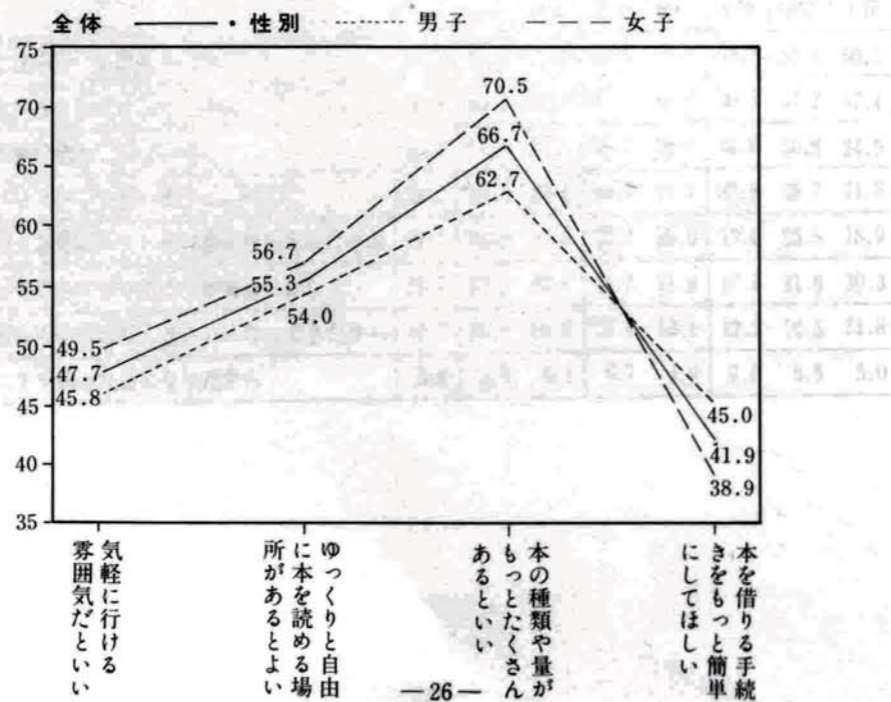
いずれの項目についても、4割以上が肯定しており、これらの側面に関する限り子どもたちの図書館への要望はかなり大きいとみることができる。

要望がもっとも大きいのは「本の種類や量をもっとたくさんあるといい」で67%、3人に2人が肯定している。とくに女子の肯定率は7割におよぶ。

次いで「ゆっくりと自由に本を読める場所があるとよい」(55%)、「気軽にいけるような雰囲気だ」といい(48%)。「本を借りる手続きをもっとかんたんにしてほしい」は42%である。

(「とてもそう思う」「わりとそう思う」の合計%)

	全体	性別		学年別	
		男子	女子	5年	6年
気軽にいけるような雰囲気だとい	47.7	45.8	49.5	49.1	46.4
ゆっくりと自由に本を読める場所があるとよい	55.3	54.0	56.7	57.5	54.1
本の種類や量をもっとたくさんあるといい	66.7	62.7	70.5	67.6	65.6
本を借りる手続きをもっと簡単にしてほしい	41.9	45.0	38.9	44.3	39.9



#### (2) どんな本を増やしてほしいか

第1位「物語・童話」22%、わずかな差異で第2位「探偵・推理小説」19%、第3位「ギャグやユーモアの本」16%、第4位「学習マンガ」16%が続く

**14** 学校の図書館に、ふやしてほしい本がありますか。あなたが一番ふやしてほしいと思う本の種類に、ひとつだけ○をつけてください。

前項でみたように、学校図書館への子どもたちの要望でもっとも多いのが、「本の種類や量」の充実である。それでは、どんなジャンルの本を子どもたちは望んでいるのだろうか。

もっとも多くを支持を集めたのが、「物語・童話」で22%。わずかな差異で「探偵・推理小説」の19%、「ギャグやユーモア」16%、「学習マンガ」16%が続く。「社会科の学習に役立つ本」「理科の学習に役立つ本」「図鑑・百科事典」はいずれも3%以下と少数である。

増やしてほしい本のベスト3は、性別によってかなり異なる。女子は、第1位物語・童話、第2位探偵・推理小説、第3位ギャグやユーモア。これに対して、男子は、第1位学習マンガ、第2位ギャグやユーモア、第3位探偵・推理小説であり、物語・童話は5位、9%に過ぎない。

